

親捨て山

朝鮮半島

むかしは、人はだれでも七十歳さいになると、山にすてられたそうです。

ある男の人が、父親が七十歳になったので山にすてようと、父親を背負子しよいこでかついで山に入っていきました。幼い息子もついていきました。

山の奥おくまで来ると、男の人は、たくさんの食べ物を置いて、父親をすて帰ろうとしました。すると、息子が、背負子をひろって持つてかえろうとします。男の人が、

「そんなもの、持つてかえるんじゃない」というと、息子は、

「だって、おとうさん。お父さんが年をとったとき、この背負子でお父さんをついですてにこなきゃならないもの」といいました。

男の人はおそろしくなり、父親をすてるのはやめてつれて帰りました。

それからというものの、年寄りをすてることにはなくなつたそうです。

村上郁再話

資料『朝鮮民譚集』孫晋泰